

若手科学者賞受賞にあたって

私は学位取得の翌々年にあたる、2014年度に「発生・分子・骨片微細構造観察に基づく日本産キヌガサモヅルの分散過程の解明」という課題で、笹川科学研究助成を受けました。私は院生の頃から、一貫して海産無脊椎動物であるクモヒトデ類の系統・分類学的な研究に取り組んでおりました。そして学位取得後、京都大学瀬戸臨海実験所でポスドクとして、臨海実習を指導しながら、多様な生物に触れることで、海の生物がどのように多様な形態を持つに至ったか、その進化プロセスにも興味を持つようになりました。進化を考える上では、海の生物がその生息域を広げる上での「分散」を考えることが肝要になります。そこで、私が研究対象として特に詳しく調べていた、深海性のキヌガサモヅルを研究対象とし、それが幼体から成体へ成長する過程での分散を考慮に入れた研究課題で応募し、笹川科学研究助成に採択していただきました。

新しい手法を試す事になり、失敗も多かったため、すぐに結果を出すことはできませんでしたが、本研究助成で得たデータは、2018年に国際誌に論文として発表しました。しかし私が笹川科学研究助成によって得られたものは、論文成果にとどまらなないと考えています。私はこの助成を得て行った研究活動を通して、「自分の研究の幅を広げる」ことを積極的に行なえるようになったと感じています。その後、所属を変える中で、研究の幅も、古生物分野や形態学分野にも広がっていきました。それらの成果が認められ、この度「形態と分子に基づくクモヒトデ綱の系統分類学的研究」という業績で、令和四年文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞させていただくことになりました。この受賞のきっかけを与えてくださった日本科学協会様に感謝を申し上げますとともに、本助成を得てこれから研究を進められる若手研究者の皆さんの研究が、これから益々発展していくよう、心より応援申し上げます。

2022年4月15日
広島修道大学 助教
岡西政典